

糸魚川 静岡構造線新露頭の見学：中部支部巡検 会報告

著者	青木 克顕
雑誌名	静岡地学
巻	117
ページ	25-26
発行年	2018-06-15
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026909

中部支部巡検会報告

糸魚川—静岡構造線新露頭の見学

青木 克 顕

平成29年12月10日(日)、松本仁美会員の案内により、中部支部巡検会を実施した。参加者は、静岡県地学会会員7名(松本、久保田、櫻井、坂田、杉山、美尾、青木)と一般参加者3名、そして本露頭の発見者である塩坂邦雄氏も同行し、解説に加わってくださった。

午前9時30分、清水区西里の「ヤマセミの湯駐車場」に集合。相乗りにて、興津川支流の黒川に沿って車で5分くらい走ると、小さな駐車スペースがある。ここで、各自登山靴に履き替え、いくつかあるワサビ田を越えながら、沢に沿って歩いた。途中、静岡層群中の褶曲構造や海底地すべりの跡と思われる露頭が現れる。

1. 露頭1 (図1)

40分ほど歩くと、目指す「糸魚川—静岡構造線」の露頭が現われた。断層西側(図1左)は竜爪層群の火山岩類で、東側(図1右)は崖錐堆積物に覆われているが、そのすぐ隣には静岡層群の砂泥互層が確認できる。竜爪層群と静岡層群の間には、幅3~4mの断層破碎帯がある。竜爪層群の壁面近くには、幅30~40cmの断層ガウジが確認でき、断層粘土中の円礫には左横ずれの動きが認められることから、本露頭が糸魚川—静岡構造線の露頭であるとわかる(図2)。

塩坂氏は、自称「空飛ぶ地質屋」であるが、パラグライダーで空から断層地形を探し、この露頭を発見したということである。場所が私有地であるワサビ田の奥にあるため、今まで調査が進まなかったということもあろうかと思う。いずれにしても大発見である。

本露頭についての詳細な解説については、「静岡地学116号」に掲載された松本仁美会員による報告を参照していただきたい。



図1. 糸魚川—静岡構造線の露頭



図2. 断層粘土中の円礫

2. 露頭 2 (図 3)

ここで、塩坂氏から「この断層の裏側に、新しい露頭が見られる。」という話があり、一行は当露頭の北側にある露頭を目指した。この露頭は、ワサビ田の中の幅の狭いコンクリートの上を歩き、さらに危険なガレを数 m も登らなくてはならない。私は現場まで行けなかったが、松本仁美会員によると、露頭 1 の続き見られる主断層 (N30°W, 60°~70°W) が確認できたということである。

図 3 の左が竜爪層群の火山岩、右が静岡層群砂泥互層である。

また、幅約 3cm のガウジを持ち、静岡層群砂泥互層のめくれ上がりが確認できるなどの特徴が見られた。

終了後、参加者全員で写真撮影を行った(図 4)。



図 3. 露頭 1 の北側に続く糸魚川—静岡構造線(撮影: 松本仁美会員)



図 4. 参加者